

(5) 実践の考察

A校、B校、それぞれの実践について、資質・能力がどのように身に付いたか考察を行います。資質・能力のうち、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標について、新学習指導要領では次のように示されています⁽¹⁾。

言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説国語編』 平成 29 年 7 月 p. 11

新学習指導要領解説に示されている「学びに向かう力、人間性等」の具体を整理すると、次のようになります。

言葉がもつよさを認識する	<ul style="list-style-type: none"> 言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすることのよさを認識すること。 言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること。 人や社会と関わり自他の存在について理解を深めることのよさを認識すること。
言語感覚を養う	<ul style="list-style-type: none"> 相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるかを直感的に判断すること。 話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすること。
国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> 国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすること。

そこで、本研究委員会では表 1 のような項目で児童への意識調査アンケートを作成し、6 月と 11 月の結果の変容を見取ることとしました。

表 1 意識調査アンケート設問項目

言葉がもつよさを認識する	問 1	「なぜだろう」「どうすればいいだろう」などと、自分で考えながら学習に取り組んでいますか。
	問 2	友達の考えを聞いたり、本で調べたりする中で、自分の考えがよりよいものに変ったり、新しく発見したりすることはありますか。
言語感覚を養う	問 3	自分の考えにぴったり合う言葉はどれか考えたり、見付けたりしながら学習していますか。
	問 4	友達の考えと自分の考えを比べながら聞いて、友達の考えとの違いやよさを見つけていますか。
国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う	問 5	単元の学習を通して、できるようになったこと、分かったことは、その後の学習や、ふだんの生活の中で役立つと思いますか。
	問 6	話し合い活動では、自分の思ったことや考えたことを相手に伝えるのは好きですか。

ア A校（第2学年）の実践の考察

A校児童の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」については、10月に実施した公開授業の単元「どうぶつのひみつを見つけて、『どうぶつすごいでクイズ』を作り、クイズ大会をしよう」における変容を基に分析します。ここでは、試案として学習指導案に挙げた【新しい評価の観点による評価規準】を基に、考察を行うこととします。現行学習指導要領と新学習指導要領を照らし合わせ、資質・能力を以下のように整理しています。

現行学習指導要領	新学習指導要領
言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 【言語についての知識・理解・技能】	言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 【知識・技能】
教材文や本、図鑑等を読み、知りたいことに関係のある大事な言葉や文を見つけて書き抜くこと。 【読むこと】	教材文や本、図鑑等を読み、知りたいことに関係のある重要な語や文を考えて選び出すこと。 【思考・判断・表現】

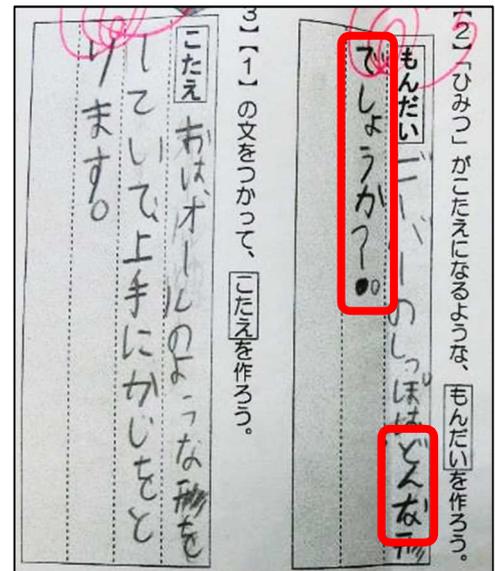
○「知識及び技能」

- ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

公開授業の単元第三次において、94%（19人中18人）の児童が、資料1 枠囲み部の記述のように相手に質問をする際に必要となる語句を用いてクイズの問題を作ることができていました。

公開授業の単元では、相手に質問をする際に必要となる語句のまとまりについて、既習事項や日常生活での場面を想起させ、「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」、「なぜ」、「どのように」、「どれくらい」、「いくつ」等を導き出しました。そして、「でしょうか」、「ですか」といった文末表現と併せて児童と確認しました。

特に、「どのように（な）」「どれくらい」といった言葉は、様子や手順、頻度や数、大きさなど、多様な内容について質問することができる言葉です。ワークシートだけでなく、掲示物として整理し、児童がいつでも見返すことができるようにしたことが、「知識及び技能」の高まりにつながったと考えられます。



資料1 質問をする際に必要となる語句を用いて作成した問題

○「思考力、判断力、表現力等」

- ・教材文や本、図鑑等を読み、知りたいことに関係のある重要な語や文を考えて選び出すこと。

公開授業では、次頁表2のように評価規準、判定基準を設定しました。

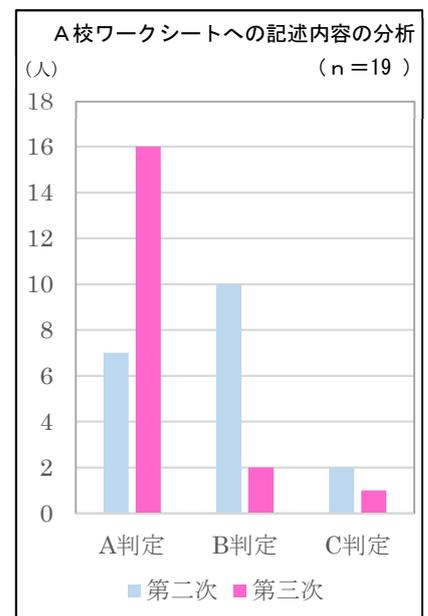
表 2 評価規準と判定基準

評価規準	知りたいことに関係のある大事な言葉や文を選び出し、その部分を基に、問題と答えを考えている。【読】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
	知りたいことに関係のある大事な言葉や文を選び出し、その部分を基に、問題と答えを考えている。かつ、問題と答えの文に過不足がない。	知りたいことに関係のある大事な言葉や文を選び出し、その部分を基に、問題と答えを考えている。	(B) に達していない。

単元の第二次と第三次で、それぞれワークシートへの記述内容を分析すると、資料 2 のように A 判定の児童が 19 人中 7 人から 16 人へと増えており、「思考力、判断力、表現力等」の高まりの一端が見られます。

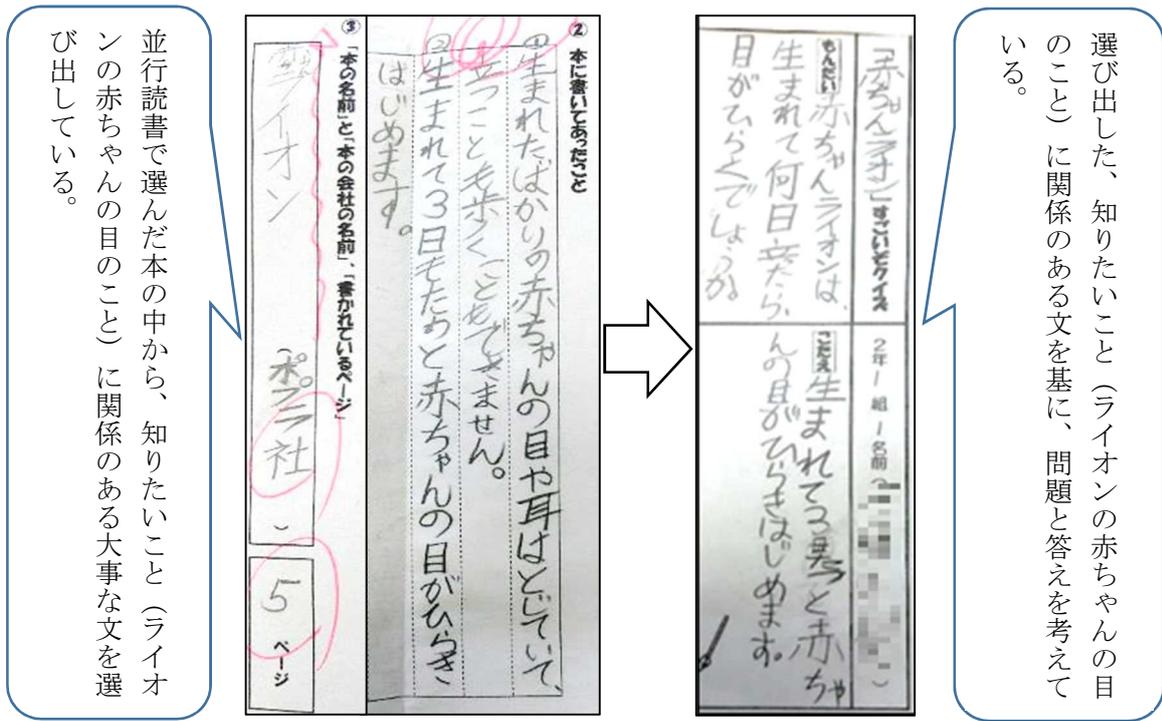
第三次では、並行読書をしてきた本の中から、知りたいことに関係のある大事な言葉や文を選び出して問題と答えを作成する必要があるため、児童にとって、教材文を取り扱う第二次より難易度が高くなると考えられます。それでも、次頁資料 3 のような A 判定の児童が増えているのは、第二次で習得した力を活用する児童が増えたためと考えることができます。

第二次では、「知りたいことに関係のある大事な言葉や文を選び出す」→「問題と答えを作成する」という一連の学習活動を、教材文（「ビーバーの大工事」）を構成している 3 つの意味段落ごとに繰り返し行いました。また、教師が有する評価規準を、到達基準として児童にも提示したことで、児童も目的意識をもって学習活動に取り組むことができたと考えられます。



資料 2 A校「思考力、判断力、表現力等」の変容

A校においては、単元後、生活科の単元「冬の生き物をしらべよう」で、生き物や植物について本や図鑑を使って調べたことを基に、問題と答えを作成し、家族へ出題するという学習を行いました。教科等横断的に本単元で習得した力を活用し、知りたいことに関係のある大事な言葉や文を選び出して問題と答えを作成する姿が見られました。



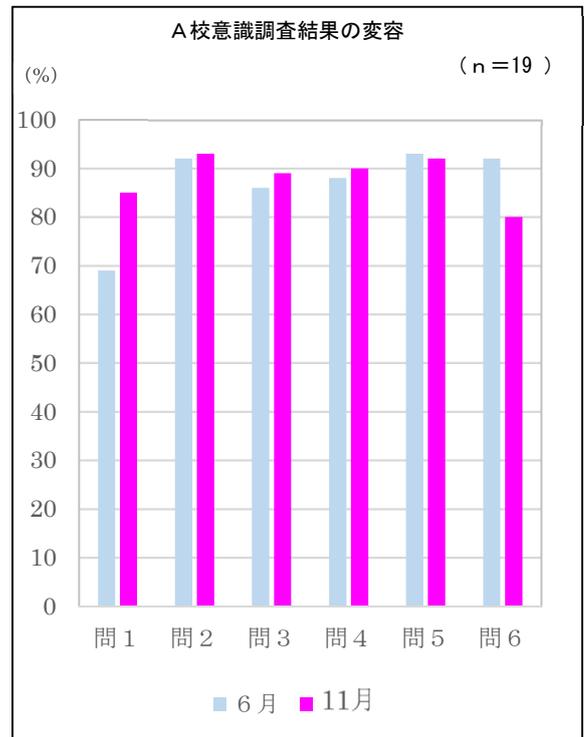
資料 3 第三次 A 判定の児童の記述（大事な文の選び出し→作成した問題と答え）

○「学びに向かう力、人間性等」

意識調査アンケートの結果、「言葉がもつよさを認識すること」に関する設問 1、2 については、いずれも数値が上がっています（資料 4）。特に、自分で考えながら学習に取り組むこと（設問 1）については、16 ポイント増加しています。これは、授業改善の観点 B 「児童が自ら考える」にも対応した設問です。観点 B で取り入れた手立てが有効であったと考えられます。

「言語感覚を養う」に関する設問 3、4 については、それぞれ 3 ポイント、2 ポイントとわずかに伸びているものの、ほぼ変化が見られませんでした。

「国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」に関する設問 5、6 については、いずれも数値が下がっています。特に、思いや考えを伝え合うこと（設問 6）については、12 ポイント減少しています。これは、授業改善の観点 C 「対話する」に対応した設問です。対話の意義を実感できるような手立てを適切に取り入れる必要があると考えられます。



資料 4 A校意識調査結果の変容

イ B校（第6学年）の実践の考察

B校児童の「知識及び技能」については、11月に実施した公開授業の単元「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」を基に分析します。また、「思考力、判断力、表現力等」については、公開授業の単元と7月の単元「一番心に残っている本について、紹介しよう」での変容を基に分析します。ここでは、試案として学習指導案に挙げた【新しい評価の観点による評価規準】のうち、重点指導事項に当たる項目を取り上げて考察を行うこととします。現行学習指導要領と新学習指導要領を照らし合わせ、資質・能力を以下のように整理しています。

現行学習指導要領	新学習指導要領
文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 【言語についての知識・理解・技能】	文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 【知識・技能】
意見文に説得力をもたせるよう、文章全体の構成の効果を考えて書くこと。 【書くこと】	意見文に説得力をもたせるよう、文章全体の構成や展開を考えること。 【思考・判断・表現】

○知識及び技能

- 文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

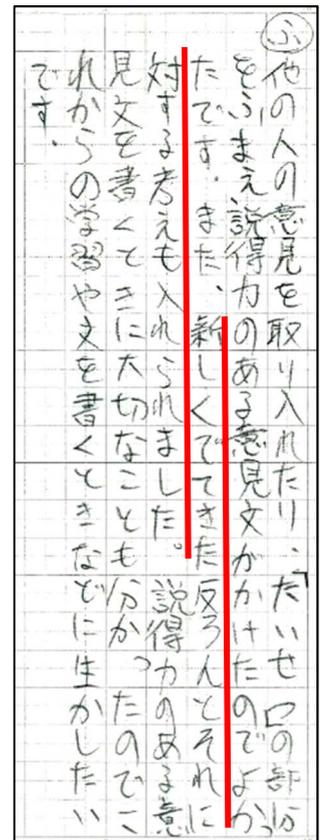
公開授業の単元学習後、説得力のある意見文を書く際の構成について児童が理解しているかどうか、振り返りにおける記述内容を分析しました。その結果、79%の児童が、資料5実線部の記述のように、意見文を書く際の構成に関して言及をしていました。

次に挙げる児童の記述は、特に、本単元で新たに出てきた「予想される反論とそれに対する考えを述べる」ことで、意見文の説得力が増すという構成の特徴について記述したものです（波線部は、本研究委員会による）。

〈児童の記述〉

- 「この単元では、説得力のある意見文を書いた。そのためには、自分の考え、調べた情報、反論に対する考えなど全ての情報を整理して構成を考えることが大切だった。これから文を書くときに生かしたいと思った。」
- 「予想される反論と、それに対する考えを書くことで、説得力がある構成で書くことができました。また、友達と意見を聞き合い、自分の考えを深めることができ良かったと思いました。」

単元のはじめに学習課題を提示することで、児童は、本単元で何を学んでいるのかを意識しながら取り組むことができたと考えます。本単元で、説得力のある意見文を書く際の構成について記述できなかった児童については、教師が具体的な文言で到達基準を示したり、ほかの児童の記述例を全体で紹介したりすることで、理解の深まりにつながると考えます。



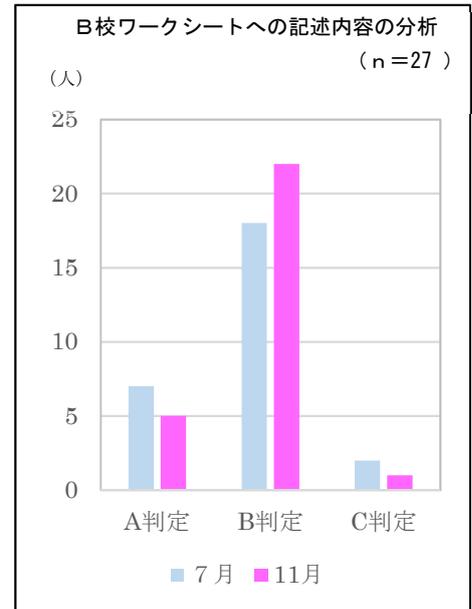
資料5 11月単元での振り返り

○思考力、判断力、表現力等

- ・意見文に説得力をもたせるよう、文章全体の構成や展開を考えること。

7月に実践した単元「一番心に残っている本について、紹介しよう」で書いた紹介文と、公開授業の単元で書いた意見文について、構成の妥当性を基に分析しました（資料6）。それぞれの文において、指導事項に応じた構成で書かれているものをB判定、さらに、文章全体を通して内容に整合性があるものをA判定としました。

7月と11月を比較すると、11月はA判定の児童が2人減少し、B判定の児童が4人増加しています。これは、11月の実践（説得力のある意見文の構成）の方がより複雑な学習内容であることも一因であると思われます。一方、C判定の児童は2人から1人へと減少しています。11月の単元では、教科書のモデル文だけでなく、児童の実態を踏まえて教師が作成したモデル文も提示したことが、書くことを苦手とする児童にとって有効であったと考えられます。



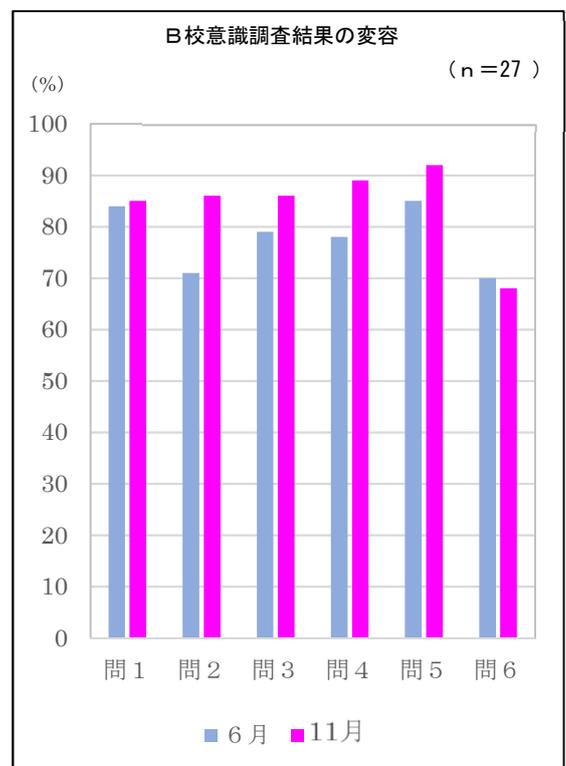
資料6 B校「思考力、判断力、表現力等」の変容

○「学びに向かう力、人間性等」

意識調査アンケートの結果、「言葉がもつよさを認識すること」に関する設問1、2については、いずれも数値が上がっています（資料7）。特に、考えをよりよいものに再構築したり、新たな発見をしたりすること（設問2）については、15ポイント増加しています。これは、授業改善の観点B「児童が自ら考える」にも対応した設問です。観点Bで取り入れた手立てのうち、学習課題の設定（次頁資料8）が有効であったと考えます。学習課題によって、課題の解決方法を具体的に児童に示したことで、児童が自ら進んで学びに向かう姿が見られました。

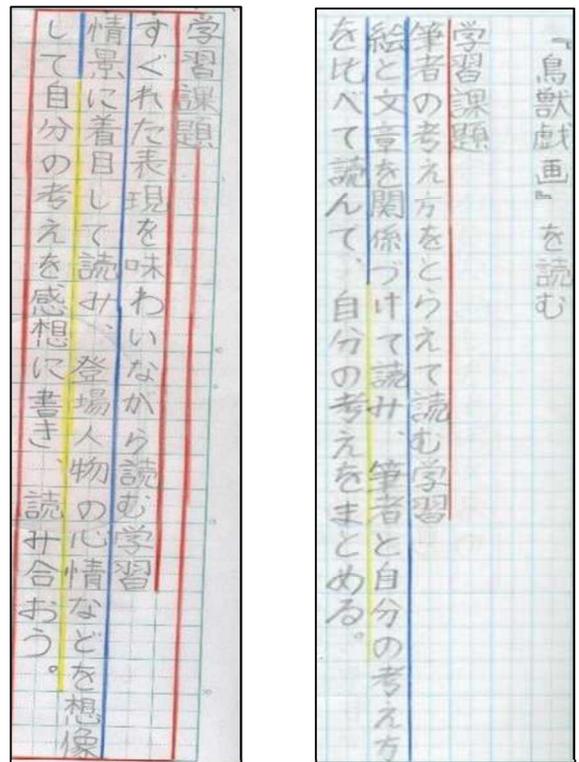
「言語感覚を養う」に関する設問3、4についても、それぞれ7ポイント、11ポイントずつ増加しています。11ポイント増加した設問4については、**観点C**「対話する」にも対応した設問です。話し合う際の観点や目的を明確にするという手立てを積極的に取り入れたことの効果が表れていると考えられます。

「国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」に関する問5については7ポイント増加、設問6については2ポイント減少しています。学習したことを日常生活に生かそうと



資料7 B校意識調査結果の変容

する態度（設問 5）が増加しているのは、**観点 D**「学習を振り返る」での手立てが有効であったからだと考えられます。年度当初は、学習の振り返りを記述する時間を設定していませんでしたが、本研究を進める中で、具体的な観点を示して振り返りを記述させるようにしました。**資料 9**は、A児による 7 月、10 月、11 月の振り返りの記述です。回を重ねるうちに、**実線部**のように指導事項を踏まえた振り返りを書くようになりました。学級全体でも、このような児童が徐々に増えました。しかし、11 月の実践において指導事項や対話等の有用性を踏まえた振り返りを記述できていない児童も、学級全体で 21% いました。単元の終末で、学習を振り返る際、学んだことの意義や有用性について学級全体で共有することを、継続していくことが大切だと感じました。



資料 8 B 教諭の立てた学習課題の例

<11月>

この単元では、**説得力のある意見文をかいた。**

そのためには**自分の考えを調べた。**

調へた情報、反論に**対する考えなど全ての情報を整理して構成をき**

えることが大切だった。これから文を書くときに**き**

<10月>

この学習では、**すぐれた表現に着目して読むこと**

と読んで感じたことを感想に書くのが**学習課題**

でした。感想は深く**読みました。**他に**機会があった**

<7月>

ふり返り

よの物語を**読んで少し登場人物の心情が読み**

た。

指導事項への気付きに関する記述に加え、学んだことを生かそうとする態度面の記述が見られる。

指導事項の有用性に関する記述が見られる。

資料 9 A 児の振り返りの変容

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説国語編』 平成 29 年 7 月 p. 11